

1. 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力
問題解決力が行使できる人材を育成する。

- ・確かな知識・技術の習得と責任ある行動を学生自ら考え行動することができた。
- ・朝のHRや学校行事、学内演習、臨地実習、授業等あらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。学生一人ひとりの状況や到達度に応じた指導を行い、学科会等において情報共有を行い、細やかな指導ができた。
- ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。
- ・校外実習や各種行事、ボランティア活動を通して建学の精神の具現化に取り組み、主体的に行動できる人材育成に努めた。
- ・多くのボランティア活動や実習を通し判断力や応用力を身に付けられるような学びができるよう努めた。
- ・日々の授業や演習・臨地実習でも看護師としての知識・技術・態度を各学年の到達度を踏まえて計画的に指導が行えた。

2. 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。

- ・担当分野の専門性を探求するために各種研修会や看護教育学会などに参加し自己研鑽に努めた。また、担当分野の授業、実習での指導の充実を図ることができた。
- ・授業評価を行うことで授業の改善、教員の質の向上を図ることができた。しかし、自己研究などの時間確保ができず、教員自身の自己研究遂行意識を高めることと、時間の確保が課題である。
- ・学生への授業評価を実施各々の授業について客観的立場からの振り返りを充実させた。90分授業が講義のみにならないようにグループワークや実践活動などを多く取り入れるよう努めることができた。また、学生に内容が伝わりやすいよう、教材研究にも努めた。
- ・資格取得達成のため資格を持つ意義等も積極的に伝えることに努めた。

3. 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。

- ・個人面談を実施し、学生の抱えている問題について真摯に向きあうことに努めた。また、健康面や生活面に対しての相談、指導に努めた。
- ・定期的に学科の会議を実施し、各クラス、実習のなかで生じた問題を共通認識し、問題解決に向けて取り組むことができた。
- ・学生個別対策ゼミを実施し、個別指導を行い苦手科目の克服に努め、学生生活のすべてを指導の場と捉え学生理解に努めました。
- ・様々な場面で学生とのコミュニケーションを図り、指導に生かせるよう取り組んだ。また、スクールカウンセラーと連携し学生支援に努めた。

4. 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。

- ・年間に多くの地域活動やボランティア活動に教職員を含めて参加をした。
- ・奄美まつりパレード、エイサー部が各種の催し物に参加をした。(2019年度)
- ・自主ボランティア活動に取り組み、時には学生と一緒に活動を実施した。また、地域でのフォーラム等にも学生と一緒に参加し、意見交換を行った。
- ・島内全域の施設や保育園、各種団体など幅広い分野からボランティアの依頼があり、地域に貢献した。地域の運動会や行事にも参加、また学校行事として敬老感謝のつどいに地域の高齢者を招待しレクリエーションを実施するなど、地域の方との交流も盛んに行うことが出来た。
- ・小湊敬老感謝の集いやクリスマス交流会などの地域活動やボランティア活動に学生と共に参加し地域貢献に努めた。
- ・ボランティア活動や、施設慰問(エイサー部)等、学生が地域活動に積極的に参加する様子がうかがえた。
- ・2019年度のボランティアは72件、参加述べ数697名であった。学生数が減少している中、クラスのボランティア委員を中心にボランティア活動への参加を呼び掛けた。地域活動へ積極的に参加し地域からも喜ばれている。

5. 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。

- ・進路ガイダンス、就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。
- ・国家試験対策については1年次から少人数制の学習サポートを行っており、成績下位の学生の指導強化を図り、国家試験合格率97.2%、全国合格率94.7%を上回った。
- ・ハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。進路ガイダンス等の情報提供を行い、学生本人やご家庭の希望に添えるようサポートを行った。卒業生の勤める各事業所訪問も継続して行い、定着指導にも努めた。
- ・進路面談を通して専門職に対する意識を高め、就職率100%に努めた。
- ・授業や実習を通して看護の魅力を学生に伝え、資格取得のモチベーションを高めた。進路ガイダンスを行い病院関係者の声を学生に伝え、進路決定を促した。
- ・定住を促す集い、教育振興協議会を開催し地域を含め高校の先生方とも交流を深めた。
- ・地元高校からの出前講座や施設物品の貸し出しや図書室利用など積極的に受け入れ地元関係機関との連携に努めた。
- ・学校開放における講座(医療的ケア研修)などを実施した。
- ・子育て応援団の実施により、地域社会との連携に努めた。
- ・各実習先との情報交換や連絡を密に行い、連携を図り実習環境の改善に努めた。

6. 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。

- ・定住を促す集い、教育振興協議会を開催し地域を含め高校の先生方とも交流を深めた。
- ・地元高校からの出前講座や施設物品の貸し出しや図書室利用など積極的に受け入れ地元関係機関との連携に努めた。
- ・学校開放における講座（医療的ケア研修）などを実施した。
- ・子育て応援団の実施により、地域社会との連携に努めた。
- ・各実習先との情報交換や連絡を密に行い、連携を図り実習環境の改善に努めた。

7. 全職員の協力による学生募集の推進

- ・学生募集分担表を作成し全教職員で募集にあたった。
- ・少子化の影響や都会志向の若者の島外への流出を少しでも減らし本校の入学につなげるための取り組みを再度見直す必要がある。
- ・定員確保に向け努力したが、目標値を達成できなかった。次年度はさらなる努力を重ね、多角的な視点でアプローチできるようよう情報収集に努めたい。全教職員はもちろんのこと、卒業生など他者からの視点も取り入れ学校の魅力が伝わる募集活動にしたい。
- ・体験入学を8回行い学生募集に努め、ガイダンスや出前講座にも参加し学生募集に全職員で努めた。
- ・職員会議や学生募集強化委員会、職員研修などで募集についてのアイデアを出し合った。高校訪問の実施や進路ガイダンスの参加を行った。